

JR連合結成30周年記念式典

結成30周年の祝事に

ほぎごと

各界・各組織の代表者が 駆けつける

記念シンポジウムに続き、同じくホテルメトロポリタンで「JR連合結成30周年記念式典」を開催した。会場には連合・交運労協の代表および各加盟産別代表、国土交通省・厚生労働省、JR連合国会議員懇談会、JR各社の代表、友誼団体の代表者等が来賓として参加したほか、JR連合加盟単組の代表者らも出席し、現地とオンラインを合わせて総勢約500人が本式典に参加した。

式典冒頭のムービー上映に始まり、荻山市朗JR連合会長の主催者挨拶、各来賓の挨拶・祝辞を通じて、結成時から今日に至るまで

のJR連合の弛まぬ運動の成果についてあらためて認識を共有するとともに、次なる30年を見据えたさらなる組織の成長に向けた決意を固めた。

また、前述の来賓に加え、JR連合歴代会長も壇上に並び、JR産業の発展に向けて、労使が「ONE TEAM」となって共に歩んでいくことを誓い、鏡開きを行った。

最後はJR連合を代表し、荻原秀己JR連合副会長（JR九州労組中央執行委員長）が閉会挨拶を行い、盛会のうちに終了した。



主催者あいさつ



国鉄改革に次ぐ大転換期に 労使をあげて 不断の变革・改革を進める

JR 連合会長
荻山 市朗

1987年4月に戦後最大の行政改革といわれる「国鉄改革」が断行され、国鉄職員7万6千人が職場を去るという未曾有の雇用不安を経験しました。JR発足当初の職場は、華々しいイメージとは対照的に大変暗く、荒んだ印象がありました。

国鉄時代の累積債務37兆円を抱えてスタートしたJRは、果たして本当に黒字に転化できるのか、会社自体が存続できるのか、誰もが不安だったと思います。労働組合においても、雇用をめぐる組合間の激しい対立や分断がありました。そのような混乱期を乗

り越え、自由で民主的な産別組合である「JR連合」が結成され、強固な組織の確立をめざしました。結成大会のアピールには、「JR内労働運動の現在と未来をしっかりと展望し、対立と分裂の歴史に終止符を打ち、二度と悲劇を繰り返さない強固な組織を確立し、JR連合の限らない可能性を追求し、新たな飛躍をめざして、遅く前進する」と謳われています。先輩方の熱い決意をひしひしと感じます。

一方、JR産業を取り巻く環境は急速かつ大きく変化し、特に鉄道の特性を発揮できない地方路線などの分野は、大変厳しい経営状況に陥っています。JR本州3社とJR九州が株式上場を果たした反面で、JR北海道、JR四国、JR貨物は、経営自立の見通しが立っていません。

また、私たちは、2005年4月25日の福知山線列車事故をはじめ、数々の事故や不安全事故を発生させてしまっています。事故の反省と教訓を胸に刻み、悲劇を二度と繰り返さない決意の下、安全最優先の取り組みを不断に積み重ねていかなければなりません。国鉄は、発足から37年10か月で幕を閉じました。JRは発足から既に35年6か月が経過をし、あと2年4か月で国鉄時代と同じ期

間に達します。社会はさらに急速に変化し、コロナ禍によって変化が一気に顕在化をしています。私たちは、今、国鉄改革に並ぶ大転換期を迎えています。今後30年間で展望すれば、JR産業が安全を基礎に持続的に成長し、組合員が安心して意欲高く働き続けられる関係を築くためには、私たちの存在意義をしっかりと確認した上で、社会の変化に対応し、労使をあげて不断に変革、改革を進めていかなければなりません。

JR連合は、そうした問題意識に立ち「次なる30年の強くしなやかなJR産業を創る5提言」を発信しました。民の力を生かして成長分野を磨くとともに、官民のパートナーシップを深めつつ、持続可能な社会形成に貢献していくこと。特にその基盤となる人財の育成を推進する環境づくりなどを提起しています。

民主的組織のJR連合は、職場の実態や意見を的確に把握し、働く仲間や地域住民と繋がる社会的な強みを持つています。JR産業の最も有用なパートナーとして、さらに連合や交運労協の一翼を担う健全な社会勢力としての影響力を高めつつ、提言の実現に向かって運動を推進していく決意です。

来賓あいさつ

JR連合が提起した政策提言の 具現化に向けて連合も連携



連合会長
芳野 友子 氏

結成後30年、幾多の苦難を乗り越え、一貫して安全の確立を最優先に、JR産業で働くすべての仲間の経済的、社会的地位の向上に努めて来られたJR連合の取り組みに心から敬意を表します。

コロナ禍による格差と貧困の広がりが懸念される中、連合は今こそ雇用と暮らしを守り、将来の希望に繋げるための底上げ、底支え、格差是正、人への投資、社会的セーフティネット等の強化に繋がる政策制度の実現に取り組んでいきます。

またコロナ禍がもたらす社会変容により、JR産業も大きな変革が強いられしていると聞いています。今まさに地域公共交通のあり方が問われていますが、その中でJR連合が策

定し取り組んでいる持続可能な地域公共交通の実現や労働政策に関する政策提言の具現化に向けて、連合も協力・連携させていただきます。

交通運輸産業における大きな転換期を乗り越えるために最も重要なことは、健全な労使関係だと確信しています。JR連合の皆さまが産業の持続的成長を通じて、働く仲間の地位の向上と幸せを実現し、組織をますます拡大・発展させることを御祈念するとともに、引き続き皆さまと力強く連携していくことをお誓い申し上げます。

日本の発展を支えた「鉄道」の 150年は関係者の尽力の賜物



国土交通大臣
斉藤 鉄夫 氏

JR連合が結成30周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

今年には新橋～横浜間で我が国最初の鉄道が開通してから150年目を迎える節目の年でもあります。我が国の鉄道は開業以来、現場をはじめとした多くの方々の努力によって大量・高速・定時制という鉄道の特性を如何なく発揮しながら、世界にも類を見ない安定性・安全性を実現し、国民の生活を支えてきただけでなく、我が国の産業の発展を力強く牽引してまいりました。鉄道が我が国の礎であり続けてこられたのも、ひとえに鉄道に関わる多くの方々がエッセンシャルワーカーとして重責を果たしてきた賜物であると考えます。

一方で、人口減少や少子高齢化といった国の構造的な問題に加え、自然災害の頻発と激甚化、さらには新型コロナウイルス感染症の影響などにより、鉄道を取り巻く環境は大きく変化してきています。鉄道が持続可能で利便性の高い公共交通機関として今後も国民生活を支えていくためには、鉄道事業に従事される皆さまのご尽力が一層重要になると考えます。国土交通省としても、末永く鉄道ネットワークを維持していくため尽力してまいります。

国の宝であるJRを守るため 真の「チームJR」形成を



JR連合 国会議員懇談会会長
参議院議員
榛葉 賀津也 氏

JR各社は、公共性が高く、時には利害を度外視して業務を推進しなければなりません。だからこそ、会社とそこに集う仲間、組合員の皆さんは、この国の宝物だと思っています。

JR産業はコロナ禍で未曾有の危機に陥っています。難局を乗り越えねばならない時に多くの組合員・社員が職場を離れています。国の宝であるJRを守らなければなりません。

私が尊敬するJRマンは、JRにとって大切なものは、「人の力」「技術の力」、そして「健全で信頼に裏打ちされた労使関係」であり、この3つがJRを発展させ、地域のお役に立てると言われていました。

今まで以上に労使関係をしっかりと築き、国や地域に貢献できるJR連合として強い結束をもって飛躍して

いただきたい。トヨタと日産はライバル会社でありながら、自動車産業のため自工会で横の連携を強化しています。

JR 7 社には、利害関係や地域での立場の違いもあるかもしれませんが、この難局を「チームJR」で乗り越えて頂きたい。そのために私たち政治家も全力で頑張ります。

健全な労使関係のもと創意工夫と自己変革で試練を乗り越える



J R 東海代表取締役社長
金子 慎 氏

JR 連合の結成 30 年は、私も JR の経営を預かる者としても大変感慨深いものがあります。当時を思い返すと、国鉄改革を経て JR 各社が発足したとき、民間企業として活力のある会社でしょう。関連事業も私鉄のように自由に大きく展開している、という熱気が職場全体にあふれていたと思います。

また、労使関係においても、健全

な労使を創っていい。国鉄時代に戻ってはだめだ、という強い思いが労使双方にあったと思います。しかし、そのままですと JR 連合の発足にたどり着いたわけではありません。労使それぞれが健全な労使関係について議論をして、JR 連合や構成組合の結成につながりました。その試練が労使の信頼感を強固にし、さらに、その労使関係が JR 各社の発展を支えてきました。

しかし現在、JR 各社は大きな試練を迎えています。特に足元において新型コロナウイルスの感染拡大が鉄道利用の減少を招き、経営に大きなダメージを与えています。テレワークやオンラインの Web 会議という仕事の仕方が広がり、コロナの収束後も鉄道事業の経営環境は以前より厳しくなると覚悟しなければなりません。

これ乗り越えるために企業として、これまで以上に創意と工夫で自己変革していく取り組みが必要であると思っています。今こそ健全で建設的な労使関係のもと、労使が課題を共有して役員も社員も共に知恵を絞り、最大限の力を発揮して難局を乗り越えていきましょう。

これからの30年を見据え世界に冠たる鉄道の発展に向けた奮闘を



J R 連合第 4 代会長
明石 洋一 氏

JR 連合を結成するとき、分裂することのない民主的な労働組合を作ろうと、全国から組合員が集まり池之端文化センターで結成大会を開催しました。それ以降、職場において組合の課題を解決し、政策課題にも取り組んできました。

結成時、JR 連合らしく、旅の出发点であるお江戸日本橋に事務所を構えようと、手頃な物件を見つけ、準備委員長であった私が不動産会社と交渉しました。しかし、JR の労働組合というと、不動産会社は二の足を踏み、貸してもらえませんでしたが。当時の新聞記事には JR の労働組合の激しさばかりが書かれていたため、事務所を借りるということは至難の業でした。幾度も足を運んで組合のことを説明しても聞き入れてもらえませんでした。最終的には私

と初代会長の矢後氏の二人で不動産会社と面談しました。当時はそれぐらい JR の労働組合に対する世間の認識は、今と違っていました。30 年を経て、JR 連合は素晴らしい産別組合に発展したと思います。これからの 20 年、30 年も体制を強化しながらしっかりと政策を作り、その実現に頑張っていただいたいと思っています。





記念式典の最後に、JR 産業のさらなる発展に向けて、労使が共に「ONE TEAM」となって歩んでいくことを祈念し、「鏡開き」を行った。荻山会長と共に壇上の酒樽を取り囲んだ来賓、JR 各社代表者、JR 連合歴代会長は、司会者（JR 連合特別執行委員／JR 西労組中央副執行委員長 白壁靖子）の「ヨイショ、ヨイショ」との掛け声に合わせて木槌を振り下ろした。

壇上に登壇の皆さま（敬称略）

芳野友子連合会長、齊藤鉄夫国土交通大臣、住野敏彦交運労協議長、榛葉賀津也参議院議員（JR 連合国会議員懇談会会長）、桜井一成 JR 北海道総務部長、金子慎 JR 東海代表取締役社長、長谷川一明 JR 西日本代表取締役社長、西牧世博 JR 四国代表取締役社長、古宮洋二 JR 九州代表取締役社長、高澤弘人 JR 貨物経営統括部人事部長、明石洋一第 4 代会長、角田修作第 5 代会長、坪井義範第 6 代会長、松岡裕次第 7 代会長

コロナ禍という未曾有の事態が発生し、世の中は大きく変化しました。JR は産業として大転換期にあります。この節目にこれまでの歩みを振り返り、現状を直視したうえでこれからの JR 産業のあり方、働く者として何をしていくべきかを考える必要があります。

JR 産業で働く者は、グループ会社などを合わせると数十万人におよぶ規模であり、産業を支える最大の財産である人財に光を当て、さらに経済・社会に役に立つ可能性のある産業であることを示し、皆で共に歩んでまいりたいと思います。

そして次なる 30 年を見据え、強くなやかな JR 産業を創造したいと考えています。



JR 連合副会長
芦原 秀己
(JR 九州労組中央執行委員長)